

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

年末手当削減反対

これ以上
賃金削るな!

10/28 JR東が業績予想・中間決算を発表

10月28日、JR東日本は22年3月期の業績予想を360億円の黒字から1600億円の赤字に下方修正しました。

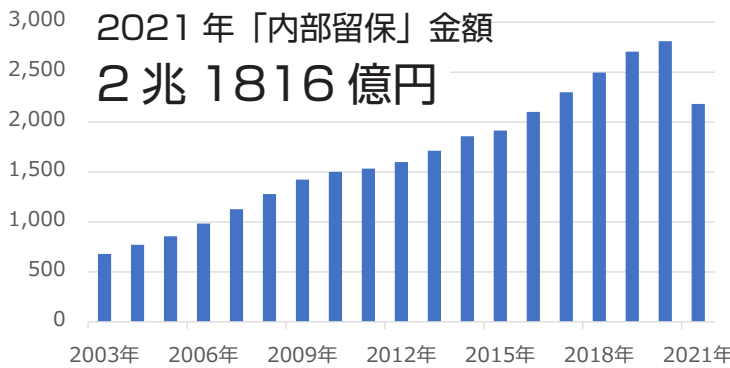
どこまで賃金・手当を削るのか

グループ全体で700億円を計画していたコスト削減のうち4〜9月に人件費の削減などで595億円分が削減されたことも明らかにされました。その上で削減額を335億円積み増し、設備投資減と合わせて1800億円の削減を行うと発表されました。

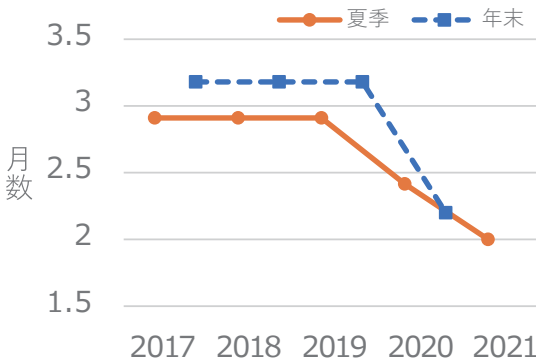
記者会見では常務が「さらなるコストカットに取り組みたい。社員の賞与の削減な

らぬ」と述べた。

JR東日本の「内部留保」



JR東日本夏季・年末手当回答額



現場に矛盾をおしつけるな

「現場に矛盾をおしつけるな」と述べています。しかし、すでに現場労働者の賃金は削られてきました。20年度は夏季・年末手当をあわせて前年から約1.5ヶ月分も削減されています。今年度はJR史上初の定期昇給カットが強行され、夏季手当も2ヶ月分と、コロナ禍前から3割以上も削減されています。さらに年末手当も削減するなど許せません。

そもそも鉄道を日々運行し、点検や検査・修繕などを行い、安全を守っているのは現場労働者です。コロナ禍でも運行を守ってきた。その現場労働者に矛盾をおしつけるなど、絶対に間違っています。

しかし、会社はそういった現場労働者の日々の努力をかえりみず業務融合化・職名廃止など現場を軽んじる施策を進めています。

そして、「赤字だから手当を削らざるを得ない」「合理化せざるを得ない」ということ自体がペテンです。これまでJR東は巨額の利益を上げ続け、積み上がった利益はコロナ禍で減った上でも2兆円を超えています。これ以上の手当、賃金の削減は許せません。